

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成28年1月13日

協議会名:新城市地域公共交通会議

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準値(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
豊鉄タクシー株式会社 西部線 (地域内フィーダー系統)	川田原滝～新城東高校	・地元要望のあったバス停(川田山田平)を新設。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 市内で最も沿線人口・65歳以上共に最多となる西部地区本路線は、市中心部の市民病院などへの通院や買物等に出かけるための重要な路線となっている。事業は、計画どおり実施できた。	B ①利用者数 目標4,515人/実績3,480人 →達成度77% ②収支率 目標8.95%/実績7.27% →達成度81% ③利用者の満足度 目標1.11/実績1.04 →達成度(基準値1.0との差 +0.04) ・主たる利用者 高齢者 ・利用者数の推移(対26年度比) (総 数) 3,480人(27年度)-3,844人(26年度)・・・▲364人	この路線の利用者は、主に高齢者であり、高齢者が市中心部の病院への通院、買い物に出かけるための路線となっている。今後は高齢利用者の利便性向上と新たな高齢利用者の獲得のため、利用促進策や情報提供に努めていきたい。また、以前地元からの要望事項として路線延長の相談があったことから、自治振興事務所や「西部線を守り育てる会」と連携を図っていきたい。
新城市 塩瀬線 (地域内フィーダー系統)	上島田～大海駅・玖老勢	・従来のJR飯田線への接続に加え、一部の便を玖老勢まで延長し、地域間幹線へ接続させることで、利便性向上を図った。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 小中学生の毎日の通学の足として、また高齢者の通院や買物の足として適切に運行ができた。また、他の路線との接続を考慮し、市中心部への利便性を確保することができた。	B ①利用者数(子供利用を除く) 目標1,622人/実績1,607人→達成度99% ②収支率 目標10.50%/実績8.61% →達成度82% ③利用者の満足度 目標1.15/実績1.14 →達成度(基準値1.0との差 +0.14) ・主たる利用者 小中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対26年度比) (子供利用除く) 1,607人(27年度)-1,506人(26年度)・・・101人 (総 数) 6,298人(27年度)-5,722人(26年度)・・・576人	28年4月に実施予定の路線見直しを確実に遂行するとともに、継続的に『布里田峯線(塩瀬線)を守り育てる会』を開催し、さらに沿線住民が利用しやすい路線となるよう検討を進めていく。
新城市 つくであしがる線 (地域内フィーダー系統)	診療所～診療所(曜日ごと路線が異なる循環運行)	・自治振興事務所担当職員との情報共有・情報交換の実施。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 各集落の生活を維持するために欠かせない路線であり、地域の生活を支えるための運行を実施することができた。	B ①利用者数 目標1,609人/実績976人→達成度61% ②収支率 目標5.05%/実績2.40% →達成度48% ③利用者の満足度 目標1.16/実績1.19 →達成度(基準値1.0との差 +0.19) ・主たる利用者 高齢者 ・利用者数の推移(対26年度比) (総 数) 976人(27年度)-1,181人(26年度)・・・▲205人	路線の主な利用者は通院・買物を目的とした高齢者であり、各集落を週に1度以上通るフリー乗降であるため、高齢者から「家の前で乗れ都合がいい」との声が多い。ただ、高齢化率は40%を超えている地域であることから、今後益々増える高齢者がマイカーに頼らず安心して通院等ができるように、バス利用のPRを積極的に行い新たな利用者の獲得を目指す。

修正版

協議資料1
(本省様式)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準値(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新城市 中宇利線	新城市東高校 ～小畑	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ①利用者数(子供利用を除く) 目標15,555人/実績15,597人→達成度100% ②収支率 目標32.39%/実績36.79% →達成度114% ③利用者の満足度 目標1.14/実績1.11 →達成度(基準値1.0との差 +0.11) ・主たる利用者 小学生、高齢者 利用者数の推移(対26年度比) (子供利用除く) 15,597人(27年度)-15,116人(26年度)・・・481人 (総 数) 54,297人(27年度)-51,476人(26年度)・・・2,821人	小学生の輸送が主な利用目的となっており、一般の利用者数は全体の28%程度となっている。 27年度は通学時間帯以外の高齢者の通院利用が増加しており、引き続きバスマップ配布を始めとした利用促進策・情報提供に努め、通院・買物に便利な路線としていく。
新城市 吉川市川線	新城市民病院 ～吉川	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ①利用者数(子供利用を除く) 目標3,242人/実績3,417人→達成度105% ②収支率 目標11.90%/実績12.37% →達成度104% ③利用者の満足度 目標1.18/実績1.15 →達成度(基準値1.0との差 +0.15) ・主たる利用者 小学生、高齢者 利用者数の推移(対26年度比) (子供利用除く) 3,417人(27年度)-3,037人(26年度)・・・380人 (総 数) 10,617人(27年度)-10,237人(26年度)・・・380人	小学生の輸送が主な利用目的となっており、一般の利用者数は全体の32%程度となっている。 27年度は通学時間帯以外の高齢者の通院利用が増加しており、引き続きバスマップ配布を始めとした利用促進策・情報提供に努め、通院・買物に便利な路線としていく。
豊鉄タクシー株式会社 北部線	緑が丘 ～新城郵便局	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数(子供利用を除く) 目標5,642人/実績4,079人→達成度72% ②収支率 目標15.94%/実績11.17% →達成度70% ③利用者の満足度 目標1.08/実績1.08 →達成度(基準値1.0との差 +0.08) ・主たる利用者 小学生、高齢者 利用者数の推移(対26年度比) (子供利用除く) 4,079人(27年度)-4,934人(26年度)・・・▲855人 (総 数) 8,082人(27年度)-9,512人(26年度)・・・▲1,430人	市中心部へアクセス可能な路線であり、鳳来北西部からの乗り継ぎ利用者も見られる。28年4月から鳳来北西部路線の運行時刻を見直す予定であり、乗り継ぎ可能回数も増やすことから、情報提供を確実にし、高齢者の通院等によるバス利用者の新規獲得を目指す。
新城市 秋葉七滝線	本長篠 ～向久保	・小中学生の登校時間に配慮したダイヤ変更と増便の実施。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数(子供利用を除く) 目標4,372人/実績2,550人→達成度58% ②収支率 目標19.40%/実績10.80% →達成度56% ③利用者の満足度 目標1.14/実績1.17 →達成度(基準値1.0との差 +0.17) ・主たる利用者 小中学生、高齢者 利用者数の推移(対26年度比) (子供利用除く) 2,550人(27年度)-3,324人(26年度)・・・▲774人 (総 数) 8,646人(27年度)-10,944人(26年度)・・・▲2,298人	小中学生の輸送が71%を占め、一般の利用者は29%程度となっている。小中学生の通学利便性向上のためのダイヤ等の見直しを実施したものの、一般利用者の利用者減少となっていることから、今後も守り育てる会を開始し、一般利用者の声を反映できるよう地元住民と共に考えていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準値(普通)とし、0.8～1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新城市 布里田峯線	玖老勢 ～稲目トンネル口	・路線を一部延長し、鳳来中学校まで直接登校できるルートの新設することで、中学生の登校時の利便性向上を図った。 ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ①利用者数(子供利用を除く) 目標300人/実績391人→達成度130% ②収支率 目標10.14%/実績10.19% →達成度100% ③利用者の満足度 目標1.04/実績1.09 →達成度(基準値1.0との差 +0.09) ・主たる利用者 小中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対26年度比) (子供利用除く) 391人(27年度)-222人(26年度)・・・169人 (総 数) 3,575人(27年度)-3,830人(26年度)・・・▲255人	28年4月に実施予定の路線見直しを確実に遂行するとともに、継続的に『布里田峯線(塩瀬線)を守り育てる会』を開催し、さらに沿線住民が利用しやすい路線となるよう検討を進めていく。
新城市 長篠山吉田線	本長篠～ 郷ヶ平～田沢	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数(子供利用を除く) 目標3,384人/実績2,054人→達成度61% ②収支率 目標37.00%/実績30.25% →達成度82% ③利用者の満足度 目標1.07/実績1.06 →達成度(基準値1.0との差 +0.06) ・主たる利用者 小中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対26年度比) (子供利用除く) 2,054人(27年度)-2,451人(26年度)・・・▲397人 (総 数) 16,290人(27年度)-16,159人(26年度)・・・131人	主な利用者は鳳来中部小学校、鳳来中学校の児童生徒だが、通院・買物・通勤を目的とした一般利用者もいる。利用者の多くは本長篠BTを経由して新城方面を目的地とするが、竹平バス停から遠鉄バス洪川線を利用することで、浜松市中心部との往復が可能となる。浜松市への『玄関口』としての一面もPRし、バス接続にも配慮したい。 自治振興事務所担当職員からは、黄柳野から吉川を経由して新城地区への移動を望む声の報告がされているため、通学利用と一般利用双方の利用者の利便性向上となる運行経路を模索したい。
新城市 本長篠海老線 (豊鉄バス株路線)	本長篠 ～海老	・路線見直しのためのアンケート実施 ・路線延長のため関係機関等への調整と地元説明会を開催(28年4月から実施予定) ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数 実績6,319人 ③利用者の満足度 1.03→達成度(基準値1.0との差 +0.03) ・主たる利用者 小中学生 ・利用者数の推移 (総 数) 6,319人(27年度)-7,190人(26年度)・・・▲871人	28年4月に路線延長を予定しており、延長予定地区内の中学生及び高齢者の利便性向上を目指す。また観光地である四谷千枚田付近にバス停を設置することから、観光客への周知も図っていきたい。
新城市 作手線	新城富永 ～作手高里	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数 目標43,777人/実績43,326人→達成度99% ②収支率 目標28.86%/実績28.02% →達成度97% ③利用者の満足度 目標1.01/実績1.00 →達成度(基準値1.0との差 +0.00) ・主たる利用者 高校生、高齢者 ・利用者数の推移(対26年度比) (総 数) 43,326人(27年度)-39,745人(26年度)・・・3,581人	作手地区と新城地区を結ぶ重要な路線であり、平成22年10月からはそれまでの距離制の運賃制度からゾーン制に切り替え、増便も行い利便性を高めた。主に高校生の通学や高齢者の通院・買物に利用されている。アンケート調査の結果なども参考にしながら、満足度の高い路線となるよう努めていく。
新城市 守義線	鳴沢橋 ～診療所前	・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数(子供利用を除く) 目標2,765人/実績2,236人→達成度81% ②収支率 目標10.84%/実績8.59% →達成度79% ③利用者の満足度 目標1.19/実績1.12 →達成度(基準値1.0との差 +0.12) ・主たる利用者 中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対26年度比) (子供利用除く) 2,236人(27年度)-1,929人(26年度)・・・307人 (総 数) 4,252人(27年度)-3,457人(26年度)・・・795人	作手中学校の生徒輸送が53%を占める他は、通院・買物を目的とした一般利用者となっている。一般利用の多くは高里地区内の診療所と買物を目的地としているが、高里バス停から作手線に乗り換え新城地区へ向かう利用者もある。通院・買物のために利用している高齢者に、分かりやすい情報提供を実施し、外出支援の一助となるバス路線を目指したい。